

## 評価結果概要表

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3890200037
法人名	社会福祉法人 興風会
事業所名	グループホーム ステラ
所在地	今治市大西町紺原甲1 1 6 6 番地 1
自己評価作成日	平成21年11月20日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成21年12月18日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

御家族、馴染みの人とのつながりを大切に、  
会いたい時に会いたい人に会える、  
したい時にしたいことができる、  
そして地域に愛し愛される ステラ = <希望の星>でありたいと思います。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

介護計画は、6ヶ月毎に見直しておられる。その際には、職員一人ひとりの視点で利用者の支援計画を立てて、それを持ち寄り話し合われている。利用者に参加いただくこともある。  
ご本人の希望に沿って入浴できるようになっているが、殆どの利用者が午後か寝前の入浴を希望され、職員は個々の希望に応じて支援されている。入浴剤を使用したり、系列施設の温泉に入りに行かれる方もある。入浴の嫌いな方へは「体重測定しましょう」「今日は一番風呂に入りましょう」等と声かけて、入浴につなげておられる。  
毎月行われている「念仏講」に、地元の方とともに参加される方もある。ホーム主催で夏祭りを開催する際には、チラシを職員が地域に配られたり、声かけて案内し、地域の方々にも参加いただいた。地域のサークルや婦人会の方がフラダンスや歌・劇等を披露してくださったり、クリスマス会には、近所のお風呂屋さんさんと弟子の小学生が手品を見せてくれることになっている。

### ・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

### 【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

### 用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム ステラ

(ユニット名) さくら

記入者(管理者)

氏名 吉井 恵美子

評価完了日 21 年 11 月 20 日

# 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>理念に基づく運営</b>				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 理念の意識付け・実践の為フロアの目につきやすいところに掲示している他、朝礼での復唱を行っている。事業所全体の理念は前年度を引き継いでいるが、ユニットごとにも理念・目標が設定されており、事業所の理念の復唱後共に確認を行っている。ユニット理念は年に一回スタッフ間の話し合いによって更新、検討を行っている。 (外部評価) グループホームと併設の小規模多機能型居宅介護事業所は「共に笑顔であんきな生活」という理念を掲げて取り組まれている。理念は居間の壁に掲示されていた。ユニットごとに職員で月目標を決めて取り組んでおられ、12月の月目標は「ケアプランにもとづいて活動しよう」等と目標が立てられていた。又、毎日の目標も決めておられ、調査訪問時には「今日は天気がいいから外出しましょう」と決められており、利用者が外に出られる様子がうかがえた。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 近所の薬師堂での念仏講や奉仕作業に参加している他、保育所主宰のバザーに出かけたり・中学校への逆ボランティア(花植え・清掃活動)などで交流を図っている。ご近所からの来訪者も多く、差し入れをしていただいたり、お話にきていただいたり、地域の祭りなどに誘って頂いたりお隣の美容師さんが出張で来てくれたりしている。関係良好。 (外部評価) 毎月行われている「念仏講」に、地元の方とともに参加される方もある。ホーム主催で夏祭りを開催する際には、チラシを職員が地域に配られたり、声かけて案内し、地域の方々にも参加いただいた。地域のサークルや婦人会の方がフラダンスや歌・劇等を披露してくださったり、クリスマス会には、近所のお風呂屋さんや弟子の小学生が手品を見せてくれることになっている。調査訪問時には、地域のボランティアの方による毎月のお茶会が開催されており、利用者全員が参加して、お菓子とお茶を楽しんでいた。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 近所の方に美容に入っただき、ホーム内の様子を感じ、少しでも認知症の理解が得られるよう配慮している。施設という垣根が少しずつ感じられなくなってきているので今後はホームにて地域の方々と共にの認知症の勉強会もおこなっていきたいと思っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 二か月に一回運営推進会議を開催し、事業所の活動を報告し、それに対する意見交換や、地域の情報いただいたりしている。苦情や個人的な内容でその場で言いにくい事項に関しては終了後聞き取ることもしている。</p> <p>(外部評価) 利用者やご家族、地域住民、市職員で委員を構成し、2ヶ月に1回、会議を開催されている。施設長や事務長も出席し、事業所から利用者の状況や活動の報告等をして意見交換をされている。</p>	<p>事業所では、会議の参加者を増やして、いろいろな立場の方からのご意見をお聞きしたいと考えておられる。事業所のさらなるサービスの質向上に向けて、会議のすすめ方等や雰囲気作り等についても工夫して、取り組みをすすめていかれてほしい。</p>
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議に参加して頂いている他、認知症介護に対するホームの取組みを理解していただくため情報や計画のやり取りを行っている。日ごろからもよく連絡を取り合っており、問題等にも相談させていただいている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議時、インフルエンザ対策の説明をいただいたり、ボランティアの受け入れのためのアドバイス等をいただいた。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 勉強会・日々の業務の中での指導等で理解を深め、拘束のないケアに取り組んでいる。今年度はスピーチロックに対しての研修を重点的に行っており、身体だけではなく精神的な拘束も行わないよう意識付けを行っている。</p> <p>(外部評価) 玄関と各ユニットの入り口に鍵をかけず、ユニットのドアには鈴を付けておられた。併設の小規模多機能型居宅介護事業所へも自由に出入りが出来るようになっていた。職員は、毎月のミーティングで認知症の理解を深めるための勉強を繰り返し行っており、「スピーチロックについての研修」を行い、事例を用いてロールプレイング等をされて、拘束について学んでおられる。管理者は「職員の利用者に対する声かけがよくなった。」と感じておられ、「利用者も穏やかな表情になった」と話しておられた。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		<p>虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>施設内外の研修、書籍等で学ぶ機会を持ち虐待防止の意識を深めている。どのようなことが虐待に当たるのか、それに対して通報する義務があるということやそれらが利用者にとってどれくらい悪影響であるかということ意識付けることによって虐待やそれに近い言動を行わないよう注意している。</p>	
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>外部研修にて学んだものを施設内研修、資料回覧などで学ぶ機会を持っている。</p>	
9		<p>契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>契約時には質問しやすい雰囲気づくりを意識し丁寧に説明をするよう心がけている他、資料などを用意し介護保険や施設利用に対し解り難い説明にならないように配慮している。 解約時にも今後の不安などが少しでも軽減されるよう、その後が困らないように相談になるなどしている。</p>	
10	6	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>利用者様においては日々の関わりの中から、思い・要望を汲み取るような対応を行うよう教育を行っている。ご家族様に於いては面会時には出来るだけゆっくりと話しを伺えるような場をつくり、家族会等においても出来るだけ意見を聞き出せるよう日ごろの関わりも含め努力をしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>ご家族の来訪時、職員は、ご家族とゆっくりお話しできるような時間が持てるように心がけておられる。現在、ご家族からの要望もあり、職員の名前と顔写真を居間に掲示することをすすめておられた。事業所のお便りには、今月から職員の紹介を載せるようにされている。</p>	<p>ホーム長は、家族会の際に、ご家族に認知症の理解や消防署、警察署の協力を得て防火・防災の勉強もできるよう、すすめていきたいと考えておられる。さらに、事業所の職員の入れ替わりについてや食事や入浴、掃除のこと、安全面等についてご家族が心配されていることや不安に思っていること、又、ケアサービスについての希望や要望を引き出して、事業所のさらなるサービスの質の向上への取り組みにつなげていかれてほしい。</p>

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価)</p> <p>新しい取り組みの採用や決定、従来のシステムの見直しなどは全体・各フロアミーティングにてスタッフの意見・提案を反映しおこなわれるよう配慮している。スタッフがどのような介護を目指しているのか、皆が向かっていきたい目標は何なのかなどは随時話し合っている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>事業所では、職員の入れ替わりもあり、管理者は「職員の質の向上に力を入れたい」と考えておられた。毎朝のミーティングでは伝達をしっかりと行うようにされている。今月から「教育」「環境」「認知症について」等、6つの委員会を立ち上げられており、職員は、それぞれに所属して事業所の質を高めていくため活動をされている。</p>	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価)</p> <p>一年間を通し自己課題を設定してもらい、それに対し年二回の管理者面接、年一回のホーム長面接を行っている。その結果は実績・勤務状況も考慮したうえ、昇給額に反映させたり、役職を新たに付けるなど、やりがいがある職場になるような取り組みを行っている。</p>	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価)</p> <p>研修をホーム内で定期的に行っている他、法人外の研修についても出来るだけ積極的に取り組んでもらっている。研修室に研修案内を張り出して告知している他、研修費の法人負担、休みの優遇などを行っている。法人が指名して赴く研修については出張費・交通費・研修費用負担をおこなっている。</p>	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価)</p> <p>管理者・職員は外部の研修などにて、交流を図り、他事業所の情報の中から自施設にそぐうものを取り入れてサービス向上に役立てている他、他事業所に対し行事などの招待や、遊びに来てください等の声かけを行っている。秋祭り・春祭りには職員と共に遊びに来てくださったりした。</p>	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価)</p> <p>ご本人とゆっくり関わる時間を持ち、暮らしの希望・不安を推し量るよう努めている。アセスメントにセンター方式も用いさまざまな情報収集に努め、出来るだけ本人の望む暮らしが出来るようこころがけて介護にあたっている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>利用開始時には十分に話し合う時間をとり、ご家族の思いを受け止め、少しでも不安が軽減出来るよう努めている他、制度や施設について解らないことはないかの聞き取りも行っている。</p>	
17		<p>初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>利用開始時の話し合いの中から、支援の見極めを行うよう努めている他、隠れた緊急のニーズがないか、見落としはないかをアセスメントしている。</p>	
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>職員は日々の利用者様の労をねぎらい、利用者様もスタッフをねぎらう・共に支えあうという共有感をもって暮らしている。共にここにいてよかった、ここに住んでよかったと思えるよう利用者職員一丸となって生活を楽しんでいる。</p>	
19		<p>本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>適宜ご家族様に相談・連絡を行い、共にご利用者様の支援を行うよう努めている。</p>	
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>以前の友人・近所の方も気軽に来園され、ご家族で支援の難しい方にはホームより墓参りや他ホームへ面会に出かけたりしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>利用者が以前住まわれていた場所の近くにあるスーパーへ職員と買い物に行かれたり、ご家族とお墓参りや以前から利用されている美容室に行かれる方がいる。同級生や近所の方が訪ねて来てくださる方もある。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) レク・家事等生活の中でそれぞれが関わり合う機会を多くもち、孤立気味のご利用者様にはスタッフが仲立ちをし、良い関係がもてるよう支援に努めている。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院の為退所された方には、利用者と共に入院先に見舞に行くなど、病気になっても、入院していてもつながっている、繋がっていける関係作りを行っている。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) ご本人との普段の会話や、面会時のご家族の話などからの情報のもと思いの把握に努めている。 (外部評価) 管理者は、今年は特に、「利用者の思いに沿った対応」に力を入れて取り組まれており、散歩や入浴時、又、居室での支援時等にお話しをお聞きしている。又、ご家族とお話する中でも利用者の思いや意向の把握に努めておられる。	管理者は「利用者の意向に沿ったケアを実践していきたい」と考えておられる。現在、センター方式を用いたのアセスメントをすすめていかれるところであり、今後さらにご家族の協力も得てアセスメントの充実を図り、日々の支援につなげていかれてほしい。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) ご本人との普段の会話や、面会時のご家族の話などから情報収集し暮らし方等の把握に努めている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) その時々的心身の状態の把握に努め、その時々有する能力の見極めをするよう配慮している。	



自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>できるだけご家族・本人参加のもと各スタッフが【支援のためのシート】を持ち寄り、検討し合っている。身体状況に重点を置いた話し合いだけではなく、心のケアにも繋がるよう、その人らしさを引き出せる計画を立てられるよう研修も行っている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>介護計画は、6ヶ月毎に見直しておられる。その際には、職員一人ひとりの視点で利用者の支援計画を立てて、それを持ち寄り話し合われている。利用者に参加いただくこともある。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>介護記録・日誌・申し送り等で情報を共有している。現在は様式の見直しを検討している最中である。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>特養での温泉入浴・デイサービスでのカラオケや行事に参加している他、施設外にも自由に出入りしていただいている。その際は本部の事務員や介護員さんなどにも協力を要請し行っている。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>スーパー、図書館、念仏講、地域行事などへの参加を通し暮らしを楽しむことの支援をしている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価)	
			個々の希望のかかりつけ医を受診している。 当施設の協力医療機関からは毎月往診がおこなわれて いる。	
			(外部評価)	
			ご家族が病院受診に同行されている。ご家族のご都合 に合わせて管理者が同行されている。	
31		看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価)	
			日常的に併設事業所の看護師に情報を伝え、適切な看 護・受診が行われている。	
			(外部評価)	
			早期の退院に向け、主治医・御家族との情報交換を行 い密な連携に努めている。	
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価)	
			早期の退院に向け、主治医・御家族との情報交換を行 い密な連携に努めている。	
			(外部評価)	
			見取の指針を作成し、説明し御家族と終末期について 十分な話し合いを持ったうえ、支援している。	
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価)	
			見取の指針を作成し、説明し御家族と終末期について 十分な話し合いを持ったうえ、支援している。	
			(外部評価)	
			現在「出来るだけ事業所で見てほしい」と希望される ご家族もあり、事業所で出来ることを説明して支援に ついて話し合いをされている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価)  勉強会、書籍回覧等にて学習を重ね、ミーティングや事故対応検討の折など適宜再確認している。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価)  避難訓練を年二回おこなっており、隣接の住宅には避難経路も含め協力体制ができています。  (外部評価)  今年の5月に、事業所独自で利用者と一緒に防火避難訓練を実施された。近所の避難場所は、利用者が日ごろ散歩されている道筋にあり、スムーズに移動できたようである。後日、近所の方から通路の危険なところ等についても教えていただいた。	職員は、避難訓練を重ね、2階からの避難等、「実際に行ってみることの大切さ」を感じておられた。今後は、利用者の現状を踏まえた訓練や夜間等を想定した訓練を重ねられたり、地域の方や法人内の協力体制等、利用者や職員の安全安心に向けて、さらに取り組みをすすめていかれてほしい。
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価)  常に一人ひとりの尊厳を意識した、声かけ・対応に努めている。その人ごとの受け入れやすい声かけについて毎月ミーティングを行い意識を統一できるよう取り組んでいる最中である。  (外部評価)  職員は、利用者が「トイレ介助の際には戸を閉め、衣類等にふれる場合にも必ず声をかけてご本人に聞いてから支援する」ようにされている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価)  ご家族からの情報や御本人との普段からの会話のから、その思いを引き出すよう、また、したいことを表せるよう意識した声かけをしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価)  就寝・起床・入浴等できるだけ、思いのまま過ごせるよう配慮している。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価)  毎朝の化粧・髭そり等の整容、行事等の外出時にはそれにあつたおしゃれができるよう支援している。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価)  普段の関わりの中、ご家族の情報などから食事の好みの把握に努め、買い物に出かけたときに食べたいものを買ったりし、一緒に準備・片付けをしている。	
			(外部評価)  栄養管理のこともあり、現在は、朝食と昼食は系列の施設から出来上がった食事が届くようになっている。夕食は各ユニット利用者と職員で献立を考えて、作っておられる。食後、ご自分の手押し車にお盆を乗せて下膳される方や、食器洗いや片付けをされる方もおられた。時には外食されることもある。職員は、それぞれが持参したお弁当等を食べておられた。	食事支援のあり方について、グループホームの特徴を十分に活かし、さらに利用者個々が楽しみとなるような食事支援ができるよう、すべての職員で工夫していかれてほしい。
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価)  職員は個々の利用者様の食事・水分量の把握ができており、どのようなものが利用者様にとって喜ばれる食事であるか本部の栄養士に指示を仰ぎつつ献立を考えている。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価)  毎食後、個々に応じた口腔ケアを支援し、口腔状態を把握、適宜歯科受診もおこなっている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表・表情・動作から、排泄パターンの把握に努め、排泄の自立にむけた支援をおこなっている。おむつから紙パンツへ、紙パンツからパットへ、そして布パンツへといった取り組みを通しこの一年で二名の利用者様のおむつをはずしてきた。その結果BPSDも減少し、いい状態を作り上げることが出来た。 (外部評価) 職員は、利用者一人ひとりの排泄のパターンや「動作」「表情」を見ながら声かけし、トイレに誘導されている。昼食後に、職員が利用者にさりげなく声かけして、トイレに誘導しておられる様子がうかがえた。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 職員は便秘の原因や影響を理解し、できるだけ自力で排便できるよう、運動・食事・タイミングの工夫をしている。	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 概ね午後が入浴の時間になっているが、希望があれば、できるだけ、どの時間にも入浴できるよう支援している。 基本的に本人の習慣・意思にて入浴されている。気のあう方との入浴も楽しまれている。 (外部評価) ご本人の希望に沿って入浴できるようになっているが、殆どの利用者が午後か寝る前の入浴を希望され、職員は個々の希望に応じて支援されている。入浴剤を使用したり、系列施設の温泉に入りに行かれる方もある。入浴の嫌いな方へは「体重測定しましょう」「今日は一番風呂に入りましょう」等と声かけして入浴につなげておられる。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) ご本人の習慣の継続を意識し、そのリズム・その日の体調にあわせて休息してもらっている。 夜間寝付けないときは、足浴・好みのもの・寄り添いなどで気持ちよく眠れるよう支援しているが、眠れない利用者様に対し無理に就寝を勧めたりせず満足がいくまでご自由にお過ごしいただいている。結果として不穏状態の緩和やそのことによって起こる事故を防ぐことが出来ている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 介護記録のファイルに処方箋をとじており、服薬の変更時には申し送り・記録の徹底をしている。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 開設三年を過ぎ自然にそれぞれの役割がうまれている。 さらに、張り合いや喜びのある生活の支援を考えたい。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 毎朝の利用者様と一緒に朝礼時や日ごろの会話から希望を聞き出すよう心がけ、日々の外出先を決めている。外出行事(バラ公園・菊花展他)には御家族をお誘いし共にでかけている。現在のところ、地域の方には外出時同行等の協力得られてないが散歩のときには挨拶をいただいたり、安全な歩行の協力をいただいている。 (外部評価) 近所の薬師堂に毎日散歩に行かれる方もおられる。月に数回、外出行事があり「奥道後菊花展」や「ばら公園」の見学等に出掛けておられる。一緒に行かれるご家族もある。買い物希望される利用者は、ご家族や職員と出掛けておられる。近々、イルミネーションを見学に行く予定になっていた。	利用者個々の懐かしい場所や個々の行きたいところ等も探り、支援していけるような取り組みもすすめていかれてはどうだろうか。ご家族とも話し合い、取り組みをすすめていかれてほしい。
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 少額ではあるが利用者様はお小遣いをお持ちになっている。そこから日用品や、嗜好品など買い物をされている。お賽銭もそこから。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ご本人が自ら書かれた手紙や代筆した手紙を家族・友人に送ったり、御家族の面会時に手渡したりしている。 事業所からの電話連絡の折にはご利用者様にも取次し、会話を楽しんでいただけるよう配慮している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>季節ごとにフロアの装飾を変える、大人が住んで心地よさを感じていける内装を心がけている。その時期の花を飾ったりすることで季節感を取り入れている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>共用空間には利用者と職員で飾ったクリスマスツリーが飾られ、習字、紙粘土工作等、利用者の作品を展示されていた。居間や廊下、玄関にはソファがあり、利用者個々がお好きな場所で過ごしておられる。昼食後は、台所で職員とお話ししながら食器を拭いておられる方や、早く食事を終えた方は、居間のソファでくつろいでおられた。</p>	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>フロアにはソファ・テーブル・椅子を多数配置し、疲れた時や休みたいときいつでも休めるようコーディネートしている。見守りがしやすい場所だけではなく内緒話も自由に心おきなくできるようあえて資格に入る休息場所も作っている。</p>	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>使い慣れた家具の持ち込みを勧めている。結婚当初の鏡台を持ち込まれている方やご家族の写真・テレビ・人形など思い思いのものを持ち込まれている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>鏡台やテレビ、人形やご家族の写真等を持ち込まれている方もある。ご家族の面会時に居間の椅子を移動して、お話される方もある。入居時、ベットを置く位置等を決める時には、利用者のご家族に希望を聞いておられる。利用者とともに職員が居室の掃除をされている。</p>	ご本人の慣れ親しんだものが少なめの居室も多く見受けられた。ご本人やご家族とも相談しながら、ご本人の過ごしやすいような環境作りについて、この機会に職員でアイデアを出し合ってみてはどうだろうか。
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>各所に手すりを設置、階段も狭めにとり左右の手すりが見えるように工夫している。居室内は適宜身体機能にあわせ、家具の配置を工夫し安全にかつ自立した生活が送れるよう配慮している。</p>	